



GOAT BULLETIN

畜資に仲間が増えました♪

目次:

好評連載 広岡先生の 随筆 ⑤0 騎りゆく大学～ (2)大学の教育力について	2-3
お国自慢(台湾編～その式)	3
はくび会ソフトボール大会 3・4回戦	4
お知らせ	5



7月24日は土用の丑の日ですね。ということで、名古屋名物あつた蓬萊軒の「ひつまぶし」です。一膳目はそのまま、二膳目は薬味(ねぎの小口切り、のり、ワサビ)をかけて、三膳目はお茶漬け、四膳目(最後)はお好みで、というのが定番です。ひつまぶしも高くなって一人前4,600円！飲みに行こうかひつまぶしにしようか…それでも蓬萊軒は2時間待ちです。



今年の6月は、猛暑続きで梅雨がなかなか来なかったですね。そんな中、畜産資源に新しい仲間たちが増えました！

まずは6月12日に2頭のヒツジが滋賀県の試験場から陸輸送で到着しました。そして翌週の19日には、沖縄県から沖縄在来種ヤギ3頭が飛行機に乗って来ました。飛行機でヤギ？と思うかもしれ

ませんが、国内大手航空会社では、「ペット」と一緒に飛行機で移動できるサービスがあります。もちろんペット欄の選択肢に「ヤギ」はないので、「大型犬」として乗せてもらいました。貨物室に載せるためのケージも無料で貸し出してきて、料金は1頭6,500円でした。空港では、予想外ヤギにグランドクルーの皆さんも大喜び。子ヤギの鳴き声に子供達たくさん集まってしまいました。そして、研究室に着いてからも子ヤギたちは大人気。学生さんが集まって、みんなで餌を食べるのを観察…と思いきや、見ている方向がちょっと違うような…？そんな子ヤギたちにもそれぞれ

名前が付けました。9か月齢のクロちゃん、6か月齢で一番小柄な白黒の「団長」、3か月齢の茶白は「ひろくん」になりました。来月早々始まる学生実験で、血液サンプルや糞サンプルを提供してくれます。みんな元気に大きくなあれ！ (よ)



好評連載 広岡先生の随筆

⑤0 翳りゆく大学～（2）大学の教育力について



私が京都大学に入学した1978年の話をすれば、大学に入学したら最初の2年間は主に吉田南にある教養部で一般教養を学び、3回生から主に農学部で専門科目の講義を受講し、4回生で研究室に所属することになっていた。教養部というのは、現在の総合人間学部の母体で、旧制第3高等学校がその前進である。教養部では第1外国語（通常、英語）、第2外国語（ドイツ語、フランス語、中国語など）、人文科学、社会科学、自然科学をそれぞれ12単位ずつ履修し、体育も必修であった。このような制度は今も全学共通科目として残っているが、現在はかなり変わってきているようである。もちろん、当時の教養部での講義は、教養部に所属する文理様々な研究分野の専門家の先生によって行われ、講義内容は多様で、多くの個性的な先生がおられたのを覚えている。修士課程に入るための入試には、英語と第2外国語（辞書の持ち込み可）があり、各研究室でせいぜい2人しか合格できず狭き門で、修士課程に行くということは博士課程に進学し、研究者の道を目指すことを意味していた。

この時代から現在までの40年を振り返れば、大学の教育システムが変貌してきたことを実感するが、それでは実際に何が変わったのかについて考えることにする。私が考えるに大きな変貌の一つが、1990年代の初めに旧帝国大学（東京大学や京都大学などの国立7大学をこう呼んだ）で起こった教養部の解体である。京都大学で言えば、教養部は解体し新しく総合人間学部となった。その背景には、大学においては教養教育よりも専門教育を早くすべきであるという論調が大勢を占め、その結果、「教養の少ない」学生、さらには「教養の少ない」教員が増えることとなった（と思っている）。確かに京都大学の学生は概して優秀で、高校まで基礎的な学力と知識を十分に持っているのであえて大学で教養科目は不要ではないかという意見があり、特に理系学部でそのような考え方が強く、このことは現在でも続いている。しかし、本当にそうだろうか。高度経済成長の下、一般社会のみならず大学においてさえ、役に立つ（思われていた）専門性が重視され、最も重要な教養が日本全体で軽視され、ゆえに今のような教養や理念なき日本社会が形成されたと考えるのは思い違いであろうか。

第2は、1990年代にはじまった大学院の重点化で、このことが現在の大学に最も深刻な影を落とす原因となった。大学院の重点化とは、大学の教育研究組織を従来の学部を基礎とした組織から大学院を中心とした組織に変更することで、京都大学も大学院大学となったが、その結果、有名国立大学でさえ大学院の定員を満たせなくなり、特に博士課程の定員の充足率は悲惨で、ほとんどの大学で定員を満たせず、頭を抱えることになっている。しかしこのことは学生の立場に立って考えれば当然の帰着で、この間、日本の大学は研究費と教員の定員枠を減らされ、博士課程を出ても定職につけず、40歳以上になっても不安定な身分（ポスドク）のまま高学歴難民となっている若手研究者も多い。実際、本学の農学研究科を見ても、修士課程で就職のよい専攻ほど学生の博士課程への進学率は低く、問題が深刻化している。この問題の発端は、企業が米国のように博士研究者を優先的に採用してくれるものと予想した当時の大学行政関係者の明らかな読み違いである。第3は、大学生の学力の低下である。私が京都大学に在籍していた23年間でも学生の学力は低下し、特に2010年ぐらいからこの低下に歯止めがかからない状況である。しかしこのことは冷静によく考えれば、団塊世代の子どもたちが大学生になった時代をピークにその後、年々子供の数は減り続き、他方で大学の数と学生定員を増やし続けられれば、このような結果になるのは目に見えていることである。この当たり前のことがわからなかったのはなぜだろうか。

以上が、現在の大学が抱える問題点を挙げてみたが、このような状況になった原因を検討すると見えてくることがある。すなわち、これら3つに共通しているのは、いずれも大学行政に関わる官僚などの関係者が繰り出した予算措置や人事などの「毒饅頭」を大学予算に窮した大学人がパクッと食べてしまったためである。最初の教養部の解体は、教養部から学部への所属(地位)の格上げ、大学院の重点化も学部から大学院への所属(地位)の格上げと予算措置(実は畜産資源学分野もこのおかげで新設された)、そして大学の数の増加と学生の定員増は目先の金も上げに端を発している。政治家や大学行政に関わっている官僚は、大学人をうまく手なづけ、意のままに動かした点ではなんと頭がよいことかと改めて感心させられるが、同時に現在の大学の深刻な状況に対して、このような判断と決断をした人々はどう総括しているのかを聞いてみたいものである。大学は、研究機関であると同時に、将来の国を支える優秀な人材を教育するための教育機関である。大学の研究力と教育力の衰退は、そのまま日本の衰退に直結することを忘れてはいけない。



広岡博之

お国自慢 (蔡くんの台湾編~その式)



今回、台湾の特別な文化である「早餐店(朝ご飯屋)」について紹介したいと思います。台湾と日本の異なる点は、台湾人が基本的に外で朝ごはんを食べる傾向があることです。小学生の頃から、家や学校の近くの早餐店で朝ご飯を買う習慣があります。そのため、学校や住宅地周辺にはコンビニよりも早餐店の密度が高いという状況になっています。

台湾の朝食文化について、主食はサンドイッチ、ハンバーガーなどが一般的で、ご飯を食べる習慣は少ないです。大まかに分けると次の3つのカテゴリーに分けられます：

1. 台湾式早餐店：こちらでは多種多様な蛋餅(エッグロール)、ハンバーガー、サンドイッチが販売されており、一つの種類につき7~8種類の味があります。具体例としては、ツナマヨ、コーン、チーズ、ベーコンなどが挙げられます。特に私のお気に入りにはベーコンチーズ蛋餅です。

2. 伝統的な早餐店：こちらでは台湾式のおにぎりや焼餅(シャオピン)、油條(ユーティアオ)などが販売されています。台湾式のおにぎりは日本のものと異なり、もち米を使用し、具材として肉鬆、ユーティアオ、煮卵が一緒になっています。

3. コンビニやファーストフードチェーン店：通常、朝食セットが提供されています。マクドナルドの朝食に似たメニューがあり、コンビニではおにぎりやサンドイッチをコーヒーや飲み物とセットでお得に販売するキャンペーンが行われています。

ちなみに、台湾では朝食に飲み物を添える習慣が一般的で、コーヒー、紅茶、奶茶、豆乳などが好まれます。台湾を訪れる際には、ぜひ台湾の朝食文化を体験してみてください。



焼餅



ユーティアオ



はくび会ソフトボール大会3・4回戦

6月12日にソフトボール第3戦が行われました！相手は生殖生物学分野です。試合当時スポーツ経験豊富な4回生のうち2人が負傷中かつ1人が滋賀県に出張中ですので満身創痕のような状態でしたが、なんと今回はお相手に既に退官された南先生が参戦されているということで、畜産資源一同かなり身構えて挑みました。試合では、皆バットには当ててボールを打ち返すことはできたものの、相手の内野の守備が堅くことごとく打ち取られてしまう展開が続きました。特にファースト(南先生)とショートがガチガチだったと記憶しています。また酷暑により両分野とも少しばてていた印象でした。試合後のスポドリは昇天しました！肝心の結果はというと1対6で畜産資源の敗北です。いやーやられましたね。まあまだ敗者復活があるんでね。とりあえず生殖の人達とお話できたので良い一日でした！

また、6月20日にはソフトボール敗者復活戦が行われました！お相手は生体機構学分野です。また、お相手は太田先生も参戦されていて、自身がいかにか日々運動していないかを痛感させられました…。しかししかし、なんと今回は皆打撃が絶好調！ほとんど全員が複数安打を打ちました！特に筆者の記憶に残っているのは隼大(M1)の技巧派バッティングです。低めの球もすくい上げる技術は全盛期の青木宣親を彷彿とさせます。本試合は4回生も2人して戦力はかなり確保できていたこともあり、結果は無事勝利！決勝戦に進むことができました。前回の反省として飲み物をグラウンドに持って行っていたのもかなり良かったです。梅雨、学生実験期間を挟むため決勝戦まではかなり間が空くことが予想されますが、万全の状態に調整して(←研究しろ)生殖にリベンジしたいと思います！



(はぜうで金色狼)



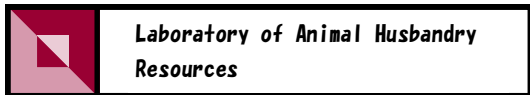
夏野菜が収穫できました！毎年恒例はくび会の畑では、今年も収穫時期を迎えました。キュウリ、プチトマト、紫蘇、バジルがたくさん収穫できています。



今月のお土産は、大分の「とり天せんべい」と「かぼすサブレ」、名古屋の「ゆかり」黄金缶でした。ありがとうございました。

みんなで美味しくごちそうになりました(^_^)





Faculty of Agriculture,
Kyoto University,
Kitashirakawa-Oiwakecho,
Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan
TEL: 075(753)6365
FAX: 075(753)6365
<https://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/>

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし送信してください。
tsukahara.yoko.8v@kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

7月2日(火)学生実験のためお休み、7月9日(火)入船、菊池(慈): 研究報告、7月16日(火)京都バイオ計測センターGC講習会のため日程変更、7月17日(水)澤田、山田: 研究報告、7月23日(火)塚原先生アメリカ畜産学会出席のため日程変更、7月29日(月)蔡、江川: 研究報告、7月30日(火)岩井、菊地(元)、田中: 研究報告

東海畜産学会賞

お知らせが遅くなりましたが、当研究室の社会人博士課程院生、静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センターの寺田さんが令和5年度東海畜産学会賞を受賞されました！おめでとうございます♪

今月のお誕生日会

今月は大石先生と高桑さんのお誕生日会です♪ケーキのリクエストは、大石先生がシンプルチーズケーキ。高桑さんがシフォンケーキです♡

日本畜産学会in京都

9月16~20日に京都大学で日本畜産学会第132回大会が開催されます。今大会は畜産学会創立100周年記念大会&廣岡先生が大会長です。皆さん、ふるってご参加ください！

July 2024のヤギ当番

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2 学生実験	3 学生実験	4 学生実験	5	6 蔡
7 澤田	8	9 金華豚の会	10	11	12	13 江川
14	15	16	17ゼミ振替日	18	19	20
21 菊池(慈)	22	23	24	25	26	27 山田
28 菊地(元)	29	30	31			